

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	保育所、幼稚園、小学校の連携							掲載ページ	
								95	
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		2,428	千円	1,055	千円	施策名	就学前教育	担当課	企画課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	子どもを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、子どもを健やかにはぐむために保幼小間が連携して、保育所、幼稚園の保育環境から小学校の学習環境への円滑な接続を図ります。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	研修会を開催し連携に対する意識の向上を図るとともに、関係団体の代表者で構成する連絡協議会の設置や、保幼小連携プログラムの作成などにより連携の推進を図ります。研修会は市が直接実施し、協議会やプログラムの作成は市が事務局となり関係機関と協力しながら実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合		91 %	93 %	93.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保幼小連携事業を実施することにより、保育環境から学習環境への円滑な接続を図りたいと考えています。そのため、保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合を指標にしました。 （最終目標と最終年度）H25年度 95%				100.5 %		
	連携についての啓発研修会・講演会の参加人数		400 人	-	467 人	順調	順調
	研修会等で啓発をし、連携の必要性についての意識を高め、連携事業の実施に結び付けたいと考えています。そのため、研修等の参加人数を指標に設定しました。 （最終目標と最終年度）					やや遅れ	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保育所、幼稚園、小学校の関係団体の代表者で構成された「保幼小連携推進連絡協議会」を設置し、「保幼小連携プログラム」2号、3号を作成しました。また、市内の幼稚園・保育所・小学校の管理職・担当者が一堂に会する研修会の実施や、各保育所・幼稚園・小学校において、幼児・児童の交流活動や職員間の合同研修などの取り組みを行い、連携に対する意識の向上を図ることができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	各保育所、幼稚園、小学校のそれぞれの既存事業の中で、幼児・児童の交流活動や職員間の合同研修を行うなど、事業の効率化を図っています。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
保育所、幼稚園、小学校それぞれに設置した連携担当者の名簿や保幼小連携プログラムの更なる活用を促すとともに、保幼小連携啓発研修や保育所・幼稚園から小学校への情報伝達体制の充実など、連携事業の一層の推進を図っていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成24年度実績評価）

事業名	保育所、幼稚園、小学校の連携							掲載ページ	
								95	
コスト	事業費	平成24年度執行額		平成25年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		-	千円	-	千円	施策名	就学前教育	担当課	保育課

【Plan】計画 →					【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	子どもを取り巻く社会環境が大きく変化し、小学校入学時に授業中に座っていられない、教師の話が聞けないといった事象が見られます。子どもを健やかにはぐむために保幼小間が連携し、保育所、幼稚園の保育環境から小学校の学習環境への円滑な接続を図ります。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	保育所、幼稚園、小学校の連携の窓口となる、連携担当者を各所1名設定しする。地域ごとの、子どもの交流や職員の交流等を通し、保育所、幼稚園、小学校が連携し、円滑な接続を図ります。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	保幼小連携事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合				93.5 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保幼小連携事業を実施することにより、保育環境への円滑な接続を図りたいと考えています。そのため、当事業を実施する保育所、幼稚園、小学校の割合と指標として掲げました。						
	（最終目標と最終年度） 95%、平成26年度						
	連携についての啓発研修会・講演会の参加者数					順調 やや遅れ	順調
	研修会等で啓発をし、連携の必要性についての意識を高め、連携事業の実施に結び付けたいと考えています。研修等の参加者数を指標に設定しました。						
（最終目標と最終年度）					遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	北九州市内の全認可保育所からは、3月に保育所児童要録を送付し、小学校入学児童の一人ひとりについて、情報の共有を図りました。また、保幼小連携連絡協議会を設置しました。就学前教育において、入学の連絡体制を強化するために、有効性は高いと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現行の組織体制の中で、それぞれの連携強化をもって対応しており、特段の予算はかけていないため、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成25年度以降に実施すること
保育所児童保育要録の作成は、義務付けられており、送付と小学校との連携による連絡会の体制づくりなど着実に取り組む必要があります。障害のある子どもを含めたすべての子どもの生活と発達を理解するうえで、個別の情報伝達は大変重要です。保育所児童保育要録の送付や、さらに各校での連絡会の実施等入学時の連絡体制・情報共有機能の強化は必要と考えています。今年度も、全保育所から保育所児童保育要録を送付します。